



(第 166 回友の会) 井手玉川自然観察会



～花の露添う井手の玉川～

日 時 2019年3月24日(日)

場 所 京都府 井手町 玉川堤

天 候 晴れ時々曇り

参加者 一般54名(内子供5名) スタッフ19名 合計73名

玉水駅前の広場で点呼を行いました。前日からの寒の戻りで風が冷たく感じられます。

駅から玉川までは5分程の道のりで橋を渡り左岸側から上流に向かいます。桜と山吹の並木の土手をぞろぞろ歩きます。

元々は橘諸兄の伝承に因み、ヤマブキが有名ですが、昭和28年の南山城水害で大きな被害の後の復旧、整備などで現在の風景があるのでしょう。川沿いには提灯がぶら下げられ、花見客を迎える準備は万端のようです。歌枕の地ゆえ、点在する歌碑を横目でちらと見て足元の雑草といわれる草花を確認します。

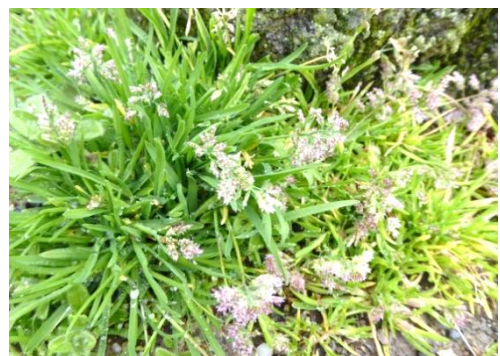
ノビル、カラスノエンドウ、スズメノエンドウ、オオイヌノフグリ、ホトケノザ、ヒメオドリコソウ、ヒメウス、スズメノカタビラ、スズメノヤリ、ナズナ、ヤブカンゾウ sp.、ヤエムグラ、など。スズメノヤリのヤリは大名行列の時に奴が高く掲げる毛槍の事で、おもしろいですね。



天井川の玉川をわたり地藏禅院をめざします



スズメノヤリ



スズメノカタビラ

水量が少ないので、右岸側へ敷石を渡る前に、川の中のクレソンも摘みました。そばにはオオカワチシャが勢力を広げつつあり、草地には枯れたオオオナモミの実が見事にくっつきます。

下見の時にはツルヨシの植生をよく見る事ができたのですが、枯れたセイタカヨシともども、刈られていました。



ひーこきーのイカル



ツルヨシ、地表をはう

同じく樹上に見られたイカルの群れやシメも人の方が賑やかなせいか、姿がみられませんでした。右岸側の畑地の傍にはムラサキサギゴケ、タンポポの黄色もぼつぼつと見られ、カンサイとセイヨウの違いをみたりしました。おや、下見の時には気が付かなかったアマナのつぼみが出ているではありませんか。私の場合、見ているようで気付いてないのが多いかもしれません。そこのあなた、ボーっと生きてやしませんか。



セイヨウより可憐なカンサイタンポポ



シロヤブケマン



アマナのつぼみ

遺跡の瓦窯跡を過ぎると竹の秋と言われる黄葉の景色が視界に開け、耳にはウグイスの声と、里山ののどかな風景広がります。

まちづくりセンター辺りは、カワズザクラが植えられて、少し華やいで見えました。この広い椿坂公園で昼食をとり、ちょっと一息。

店開きでは、前述の雑草と言われる草花が並びます。シロヤブケマン、アケビ、サネカズラ、立派なセイタカヨシまであり、いつも脱帽の収集です。

さて、お勉強の演目ですが、男の子が採集したサワガニやヨコズナサシガメの紹介に始まり、最近分布を広げている特定外来生物のクビアカツヤカミキリの説明、この虫は桜や桃などに卵を産みつけ枯らしてしまうので、注意喚起がされています。フラスという幼虫が食した後の木くずを見つけたら環境管理事務所に連絡しましょう。



いつも充実の店開き



次に、タケの秋のメカニズム。タケは一体、草なの？木なの？タケデス。タケの節はいくつあるかなど解説してもらいました。

雑草の本日の代表、オオイヌノフグリ、ホトケノザ、ヒメオドリコソウの説明をして最後は熟練、老練？のお三方によるアオモジクイズを楽しみました。

後半、玉津岡神社、地藏禅院のある山手へ向かいますが振りかえると山の斜面に、クイズのアオモジの花が黄色く見え遠目に映えていました。

舗装されていますが、結構登ってきたので市街地が見下ろせました。地藏禅院の境内にはハクモクレンが満開で見ごたえがあり有名な枝垂れ桜はこれから見頃を迎えることでしょう。多勢で押しかけたので、御礼のお賽銭も忘れずに入れました。ご利益はないかな。

禅院をあとにして、小町塚から住宅地を抜けての帰路には、アセビの花が満開の家が何軒かありました。

電車の都合で、先に帰られた方も何人かおられました。が、みっちり歩いて静かな里山を満喫できたのではないのでしょうか。

(榎)



アオモジクイズ



地藏禅院のハクモクレン



シダレザクラ



竹の秋・風流ですなあ



トガリアミガサタケをみつけたよ



遠目には黄色く見えるアオモジ。白い苞の中に
小花がいくつかあります